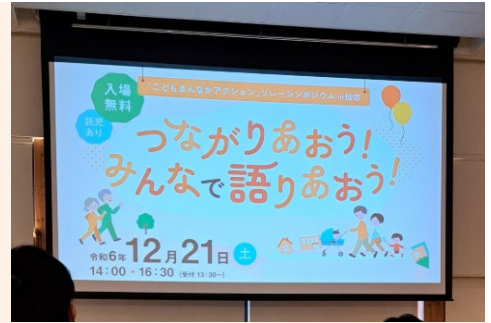


「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムin仙台 —つながりあおう！みんなで語りあおう！—

仙台こども財団が令和6年7月に実施した「こども・子育て支援団体の実態調査」の結果では、「今後一緒に企画・事業に取り組んでみたい、ほかの団体・関係機関はありますか」という質問に約8割の団体から具体的な連携・協働先の回答がありました。また、「最も最重要視している活動」についての質問に「世代を超えた交流。居場所づくり」と回答した割合が高いことが分かりました。

この調査結果を踏まえ、支援団体それぞれの強みを活かした「連携・協働」と「世代を超えた交流・居場所づくり」をテーマにした、「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムin仙台—つながりあおう！みんなで語りあおう！—を、令和6年12月21日に開催しました。一般財団法人こども財団の湯浅理事長の講演、各団体からの活動事例紹介、最後に参加者同士でグループワークを行いました。



講演 | つながりあう・多世代交流～「こども・子育て支援団体の実態調査」を踏まえて～

一般財団法人こども財団 理事長 湯浅誠 氏

一般財団法人こども財団で行われた、3つの取り組みが紹介されました。

①こども・若者会議

子どもたちがまちづくりを考える活動を通して、年齢を超えた交流や意見交換ができるものでした。今年度は、清掃活動とお祭りの企画を行っていました。これらの活動を通して、子どもたちが仲を深め、成長していく姿を見ることができたと実感していました。

②パパ育休取得チャレンジ企業創出

新たに4つの企業の、男性の育休取得応援を行っていました。実際に育児休暇を取ってみて、家族との時間が増えたり、パートナーをサポートできたりしたという声が寄せられました。

③児童福祉セミナー

子ども・子育てを支援する団体が複数参加し、支援方法を考えていくセミナーです。これは、2月に行う予定のセミナーでした。講師の方をお呼びして、講演を開催する計画です。

1つ目の活動には私も参加したことがあり、小学生から高校生、そして大人のスタッフまで幅広く交流できる場だと身に染みて感じました。子どもたちの成長だけでなく、新たな居場所としても期待できると思いました。

2つ目の活動は初めて知りました。まだまだ男性の育児支援が整っていない企業が多いので、今後も続けていくべき取り組むべきだと考えました。

「こども・子育て支援団体の実態調査」では、既に世代間交流をしている団体は多い一方で、企業や小学校、地域団体との連携が足りていない現状が見えました。例えば、企業と学校が連携して、子どもの職業体験などをしてみたいという声が寄せられました。地域課題の発見と解決を、それらの団体と協働して行っていく必要があると感じました。

居場所の種類は、「より多くの人によりたくさんの」という目的の「どこも」と、「少なくとも1つ」を意味する「どこか」がありました。連携を活かした居場所づくりとして、子どもと高齢者の居場所づくりを同時に実現できる活動が例に挙げられ、それは地域づくりにも繋がるというお話がありました。子どもは居場所が多いほど自己肯定感が高くチャレンジ精神が旺盛になり、大人でも幸福度が上がるという調査結果も得られました。これらのことから、多世代交流で人と人との繋がりを生み出し、地域コミュニティを強化する活動が、身も心も充実した人生を送る上でいかに大切であるかを学びました。また、「どこも」の視点で、子どもにたくさんの居場所を提供できるように工夫された企画を、より多く発信していくことが大事であると感じました。

活動事例紹介

○NPO法人 FORYOUにこにこの家 理事長 小岩孝子 氏

高齢者支援や地域交流活動を展開しているFORYOUにこにこの家では、19団体とネットワークを構築していました。東日本大震災を経験して、人との繋がりの重要性を感じ、避難ルートのマップや啓発動画を作成していました。また、こころの輪事業として、東日本大震災での経験を広めたり、子ども食堂の運営によって地域との交流や学校等との連携を図ったりしていました。

○NPO法人ふうどばんく東北AGAIN 副代表理事 富樫花奈 氏

寄付された食品を生活困窮者に提供している団体です。企業と連携する上で、信頼と広報を大事にしていました。広報の方法は作成したパンフレットを渡したり、SNSで発信したりすることでした。企業と企業を繋ぐ役割として講演も有効でした。それらの内容は、フードバンクでSDGsに取り組んでいること、協力してくれた地域への還元状況、寄付してくれた物資の流れの使い道などでした。

○こども家庭庁成育局成育環境課長・こどもまんなかアクション推進室長 安里賀奈子 氏

「こどもまんなか」とは子どもや子育て中の方々の視点に立って活動するという意味が込められています。子ども政策の司令塔として、常に新しい政策と隙間事業を展開できるように努めています。具体的には、地方や民間と連携して、高校生の居場所づくり事業や子ども食堂などを行っています。

グループワーク

「連携・協働」と「世代を超える交流・居場所づくり」について、「他の支援団体や企業、地域と連携・協働する上での課題(困りごと)、今後やってみたいこと」をテーマに、参加者同士で意見交換をしました。その後各グループで発表をしました。

何かしらの共通点のある4~5人のグループに分かれて、話し合いに参加しました。課題はたくさん見えてくるのに対し、それを解決するためのアイデアを出すのがとても難しかったです。ただ、このような機会は大切であると同時に、あまり行われていないため、今後も意見交換をができる場を作っていくべきだと思いました。



グループワークを通じて、私は2つのことを考えました。

1つ目は「そもそも」を共有することが重要であるということです。そもそも居場所とは何なのか、連携にどのようなイメージがあるのか、共通認識がないと、話し合いの場面だけではなく実際に事業として行う上でずれが生じてくるのではないかと考えました。

2つ目は、世代間交流と居場所づくりを考えるときには、まず地域課題に着目するということです。グループワークでも先に課題を考えたので、重要視されていると感じました。その後どのような居場所にするか、それを実現するにはどの協力団体が必要か、というように順序立てて考えていくことを学びました。

他団体と連携する際には、自分たちについて知ってもらうことも必要ですが、相手のこともよく理解し互いの仕事をリスペクトすることが大事だと思います。多角的な視点から社会を捉えていきたいです。

東北学院大学3年 富永真由

2

【概要】

名称：「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムin仙台

場所：仙臺緑彩館(仙台市青葉区川内追廻無番 青葉山公園)／日程：令和6年12月21日(土)

内容：講演 つながりあう・多世代交流～「こども・子育て支援団体の実態調査」を踏まえて～、活動事例紹介、グループワーク「連携・協働」と「世代を超えた交流・居場所づくり」

主催：仙台市、一般財団法人こども財団／共催：こども家庭庁